

# Trends in Psychiatry

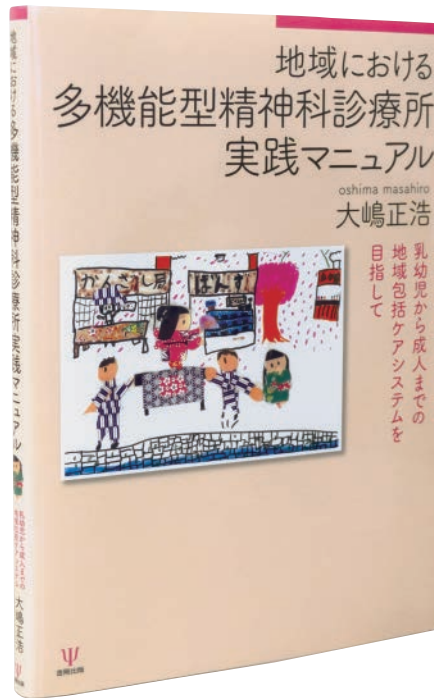
Theme

## 書籍

『地域における

多機能型精神科診療所実践マニュアル

乳幼児から成人までの地域包括ケアシステムを目指して』



## 書籍紹介

『地域における多機能型精神科診療所実践マニュアル 乳幼児から成人までの地域包括ケアシステムを目指して』

編著者:大嶋 正浩  
発行:金剛出版(2017年)

患者さん一人ひとりの人生に寄り添うことを第一に考え、医療、福祉、行政など多面的な支援を構築した結果としてできあがった多機能型精神科診療所。その一例として、医療法人社団至空会(静岡県浜松市)の取り組みを、成り立ちから制度の利用方法、実践に伴って起こりうる問題、地域に浸透していく流れなどをつまびらかにした実践記録集。療育や就労支援など各部門のアプローチの実際も丁寧に記され、現場で困ったときにすぐに使えるヒントが満載の一冊。

まずはじめに本書のテーマである「多機能型精神科診療所」についてご解説ください。

多機能型精神科診療所とは、地域の必要に応じて活動していくうちに外来診療だけでなく、デイケアや訪問看護、就労支援などの諸機能を徐々に追加し、多機能になった精神科診療所をいいます。この診療所は患者さんが地域で生活するために必要なサービスを提

供したり、自分たちで対応できないものについては豊富なネットワークを駆使して紹介、依頼する、いわばよろず屋のようなものです。全国で自然発生的に発展し、形態はさまざまですが、どこも共通しているのは地域の精神保健福祉に責任をもつ姿勢ではないかと思います。

当法人の場合は、「メンタルクリニック・ダダ」と「ダダ第2クリニック」が外来診療と心理カウンセリング、デイケア、ナイトケアを併せもつ診療

所であり、福祉部門の「だんだん」では宿泊型自立訓練、ショートステイ、就労移行・継続、地域活動支援センター、就業・生活支援センターなどを、「ひだまりのみち」では就労支援などを、「さんぼみち」では児童発達支援などを行っています。スタッフは福祉職員も含め非常勤を入れると約200名にのぼり、デイケア・福祉施設ともに定員いっぱいの利用があります。診療はもともと児童思春期を対象にしていたですが、現在は乳幼児から青